正蒙家範初子

巻

名家類砂子冬目錄

乾坤之部

十月 一　神無月
初冬 三　冬ごもり
神送 五　神旅
神迎 六　達广忌
芭蕉忌 七　御乘越
初時雨 九　時雨 十一
霜 十四　霜夜
氷 十六　薄氷
鐘氷 十七　河氷
小六月 二　小春
亥猪 四　亥猪餅
神留守　神集
御命講　十夜
夷講 八　風
冬雨 十三　初霜
霜柱　初氷 十五
厚氷　氷柱
鐘河　月河

凍 十七
初雪 十九
雪吹
雪礫
雪沓
霙 廿五
冬籠
囲火桶
埋火
蒲団
足袋 廿三
脛 十八
雪 廿
雪志賀
雪佛
雪竿
霰
炉開 廿七
火鉢 廿九
囲炉裏
紙衣 廿二
脈
深雪 廿一
雪丸ケ 廿三
雪達广
綱貫
冬搆
巨燵 廿
湯婆
綿入
寒
雪見 廿二
雪搏
雪車 廿四
橇
北窓塞
口切 廿八
火桶
置巨燵 廿
衾 廿一
頭巾
炭俵 廿四
炭賣

炭竈
冬夜
冬野
冬川
冬至
被初
吹革祭
神樂 四月
風呂吹
貝焼
師走
炭団 廿五
冬月
冬山 廿九
冬海 四十
暦賣 四十一
子祭 四十二
空也忌 四十三
里神樂
干菜
雞卵酒
八 四十八
榾
枯野 廿七
枯野 廿八
山眠
十一月
髮置
子燈心
鉢叩
芝居顔見世
浅漬 四十九
生姜酒
事始
冬日 廿六
冬田
霜月 四十
袴着
小火焼
大師講
納豆 四十五
黄麦湯
藥喰 四十七
御仏名

寒入 四九
寒念仏 五十
寒見廻
札納 五二
節季俳 五三
年忘
[illegible] 五六
餅延 五七
春迫
年尾
年夜
寒中
寒水
寒空 五一
古暦
婆等 五四
年市 五五
花掛
餅花
行年 五九
年惜
除夜
寒垢離
寒晒
寒月
衣配
年木
節分
年内立春
掛乞 五八
年暮
大三十日
寒聲
寒紅
寒雨
煤掃
年用意
松[illegible]
餅搗
春待
年忘残 六十
大年 六一
岡見 六二
和布刈神事

年籠

植物之部

落葉 六三
枯菊
枯尾花
枯蓮
麦蒔 七十
葱 七二
菜花 七四
歸花
寒菊
木葉散 六四
枯萩
枯芦 六七
枯草 六九
蕪菁刈 七二
水仙
八ッ手花
冬牡丹 七六
散紅葉
枯萩 六八
枯蒔 六八
冬枯
大根曳
石蕗花 七三
枇杷花
冬椿
寒椿 七七
枯柳 六五
枯芒
枯蒔蒔
冬木立 六九
茲曳
枇杷花
椿花 七五
冬玉椿 七八
室咲椿

寒梅 七十八

生類之部

千鳥 七十九
鴛鴦
鶯子啼
鷹狩 八十六
列卒繩
暖鳥
冬蠅 八十九
網代守
鰍鰊
小夜啼 八十
鴨 八十三
鶺鴒
鷹匠
教草
朱兎 八十八
冬蝶
羅 九十
杜夫魚 九十二
水鳥
小鴨 八十三
鷹 八十五
退鳥狩
力蚓 八十七
冰魚
凍蝶
生海鼠
浮寢鳥 八十一
鈴鴨 八十四
鷹野
鳥叫
夜興引
寒苦鳥
網代
鰒 九十二
牡蛎

乾鮭 九十三
鱈
鄰
鰊

追加之部目錄

時雨月 九十四
立冬
日短
搗衣拂
冬菊
冬芭
冬草
霜蚓
霜枯
枯桜
枯茨 九十五
枯葛
枯柏
枯芭蕉
枯蓼
枯芝
埋生姜
荻菜積
霜ゝ
霜蕊
薬煙
古火桶 九十六
懷炉
手炉
温石
白炭
枝炭
小野炭
厚衾
古衾
鬱巢
冬鷹 九十七
冬鹿
冬蕨
冬鶯
鰍

竹筍　朝味噌　鮭突　氷翠
庭燎　都恩講　十二月　九大　乙子朔日
乙子餅　臘梅　寒竹　暦巻納
追儺　門松賣　門松立　蒸竹賣
蓋朶賣　九十九　穂長賣　胴子板賣　小晦日
年取　宵飾　年一夜　年忘夜
いとの年　年の湊　百年の瀬　年浪
年の坂　年の関　年の宿　春隣
別歳

都而二百十五題

俳諧發句題砌子集

八雲誠守編
等園等哉校

冬之部

十月

十月や柳ちるけはあるとなり　樗堂
十月や柳ちるけはうすきうち　升六
十月や新かくるとなれ　成美
十月や雪はめけれ家けうち　嵐外
十月や雪とあるは家うき　蒼乱
十月や雪とあるは家のい　阜池

十月や奈良ひらく小杉原　風朔
十月や外山の雪うち積りて　杞憂
十月や高野九十九の山　九起
芒原は十月ぬくきゆゑ　柏樹
十月や漣よせて寒の底　由哲
小春ふく風や行方の神無月　蕉村
打ぬれてよく寝る夢や神無月　巣兆
松の風雲の底なし神無月　呈夫
あつうちは雲もうつして神無月　阿鵬
小酒屋も小綿屋も神無月　風朔
うつる岳の陰とまりや神無月　春白
里あそこよりて行や神無月　由哲
豆腐ひく音の最中や神無月　形什
狩野殿の つゝ乱れや神無月　見外
狩舟の白たまうけや神無月　英山
椎の木を毎日ぬれて神無月　柳宝
鳴もんしを約する舟ふ[illegible]　琉石
その奥の鬼も出うろ小六月　蕎風
井戸ばたふ琉球咲ぬ小六月　太柳
ふるを呼り出てうろうろ小六月　風朔
　　法史
　　由哲

小春

夕龍や来ぬ日のかくの小六月　為山
餅夕を寒し夫婦は小六月　就古
海は青一日きき小春かな　暁臺
山さて行悲しの菊に小春かな　蓼太
芦の穂はさくあまた小春かな　芝充
京姫のゆめやうある小春かな　寅杉
行人よ夕霧かくる小春哉　月居
藪挿てのそこかしこ小春かな　蒼虬
清水を見せかけて小春かな　朝陽
猿の手つすや小春の雪かくれ　鳳朗
早川をよく日和は小春かな　而后

あるく人も後小春の竹箒　道之
手入して押すや小春の庭は古　卓池
野の宮よ糊含せらん小春かな　岱白
宿京でも日あるもよき小春かな　慎儀
雲の上るさ山を小春は杉かな　似老
是に来て葉の下はあるは小春かな　何芸
水の汲と梅は小春は杉かな　一具
残るを行人見えてゆく小春かな　文操
京は種あき畑里の小春かな　梅室
人ところを出て麿掃よ小春かな　林曹
雅なる人の見つのまたなる小春かな　由哉

初冬

[illegible]

冬ざれ

[illegible]

冬ざれを野辺の草の名なるべし　士朋

冬ざれや[illegible]　易足

うつろふや月日のあるかなきかの　老雀

冬ざれや古寺一ツ鄙をなる　渡高

玄猪

某二升小豆ばかりやの玄猪かな　夢右

[illegible]　万和

御玄猪や嵐の[illegible]　風朋

[illegible]の[illegible]　一具

[illegible]　最白

[illegible]玄猪の[illegible]　蓬丈

[illegible]　京池

物忌の為にしるす玄猪小　田楽
高猪餅　神に奉る餅の玄猪の日　也聚
何もかくかくかくしかのと餅　拍誠
茅野戸や玄猪の餅を二折　山外
我富の矣色神も仕せ　一茶
風雪ふとまれる雪の神送り　渡物
神送り既ゆるものの松の風　双鳥
あるかなてふふくらん神送り　青扇
女夫ふと物上ふ仕や神送り　天越
燃つきる焔をかきわ神送り　岳流
ゆ雨まきふ行あるかな神送り　一具

神旅人たいき神の松ふ白の海　庭史
細さの苔もうまわ神のまし　一具
神の路うちて野ひしまま小　芦湖
御さは物足見て神の松　風村
神の松我も仕の形あり　祇守
神留主葱は玉神の古留と白人なり　成美
松風和神は留ふ祈ふある　宵洞
二月神の留ふと古ふ　西風
形ゆ中置ふ神の留ふ　雪白
ふの森も白象ふ神の留ふ　夷則
ふる餅を古ふ行ふ神の留ふ　為あ

神集

吉よきく面風もなし神集　蟬羽

三尺のらにしこれて神あつめ　六村

宿まうら飛ぬかしま哉神集　翠菓

神迎

一月は落葉に掃て神迎ひ　蝶夢

神むかひおくしめ人はあまたあり　也潮

毛穴くらおとの蜜や神迎ひ　甚山

人多き東海道や神むかひ　米篤

明る松を川原て待や神迎　亀洞子

定めあるらのあれさそかし迎　史備

落葉なくてはまれれ神迎　琳弓

神迎一日まてはあらね氣也　山外

達磨忌

達磨忌や来らう寒くる枝に　白雄

達磨忌や達磨の忘らぬ候一義　完来

達磨忌や面壁ののら汁の中　乙二

達磨忌や猫まかえしむしろ面　寄洲

達磨忌や芦絹中れ八とよさ　虎白

達磨忌や雪路をされ杖ひし　沙残

達磨忌やさるれいおに絵し達し　四山子

達磨忌やあるるく寒き背中つき　為安

達磨忌や寒の中たらる五日月　由哲

御命講

山里は舟に寒き御命講　万嵐

御命講や日和のよさまへの出る　一貝

十夜

渋皮　卓池　素行
中花　琴太　白雄
吾夫　風居　風朗
余池　一具

芭蕉忌

ちせ残るはこんにやく売の襟かな　升六

木兎は来て秋をさやぎ花の日　蒼帆

以上あまたのこゝろ旅して祝しけれ　風朗

松せねて後悔多し菊は日　雲白

ちせ残るやしけれて月のこゝろき　月居

杖笠をあつめる志けれまゝさく　逸淵

笠翁や辺の仕舞は月晴り　一具

志けれ果や時うちまきまき　為山

海山の志かれをかゝる気武下ゞ　梅通

ちせ残る尋ひたあの池り咲　宗那

なつてそりんよ見叟対四ぞ　梅室

御取越

花さしのりみみしまくは御取とし　棠兆

西向くは祠堂の暮や御取こし　太江丸

親舟は角屋のあり御取こし　鳳朗

寛ぐ角をりはいそがしや御取越　由哉

御座敷て餅をひろふや御取越　旬光

まうまくて嘉清も見るや御取越　祖江

万才は借名をのし御取越　一具

枚年は戸口きせりし御取越　龍古

夷講

屋敷うく梅からひろう夷講　曉壺

ふし柏む水のちよなひ夷講　太江丸

えひす講この物売をつるもの　芒素

凩

逢坂を吉備て越そ千鳥　蒼虬
呼のよき舟のまかしや千鳥　卓池
うら戸に磨粉のうや千鳥　淡叟
旦家針鋲をのせやちどり　沙鴎
洲にされもまる[illegible]千鳥　大梅
草[illegible]袋うる[illegible]けりて千鳥　五渡
ちどり[illegible]つひなやいそ生せし　水竹
月さして[illegible]ちどり　一具
[illegible]籠を[illegible]ちどり千鳥　由[illegible]
汁椀[illegible]のれちどり千鳥　鶴年
木からしや[illegible]も[illegible]　樗堂

木からしに[illegible]のひとつはらし　暁台
こがらしの中に生ひけり枯尾花　闌更
風や海へさいに出る月　士朗
木からしや緑寄る年の[illegible]き　月居
木がらしや[illegible]山を山のうへ　千岸
こがらしや[illegible]さめぬ身心　杜鶩
こがらしの[illegible]まくる月の出[illegible]　護物
木がらしや[illegible]の[illegible]　給[illegible]
風や[illegible]れ[illegible]　九起
[illegible]木がらし[illegible]磯の鵆　梅室
木がらしや大和の地[illegible]とまりん　鳳朗

初時雨　蓑虫の泣きそうなる初しぐれ　芝村

流芝　朝陽　紙年　志屋　南柯　一具　仙郎女　夷則　京郎　芝村

初しぐれ市人さわぐ声もなし　也有

一袋おくれさうなる初しぐれ　白雄

淋しかるべき世や宮の鳴り　月居

初しぐれ濡れ行く人やまつ一人　士朗

まつ人を待つ人やまつ一人　升眉

一本の柳の枝の初時雨　左評

寒さうな柳の枝の初時雨　蓑虫

二三日軒さきかしてまつ一人　風朗

人もうけもなくて歌仙の初しぐれ　京池

山もさびしうなりまさる初しぐれ　万歌

蓑雄

我先とゆかりの都のまつしるれ　子崖
梅檀の葉の落つるを初時雨　淡交
桐の葉はのきまきまて初しるれ　雲白
とく起し老の寝覚の初時雨　凡外
西海子　青あるまてやまつ時雨　易古
俗人の幕とるまてやまつしるれ　一具
久方の雲を出てしるれ初しるれ　天遊
月かくれまて雲まて見るまつ時雨　仙意
行燈の掃除に出て初しるれ　崖丸
海山に去る雲とまつ来れ　丸空
鶯も鮮の雲を出てまつ時雨　由梨

時雨

柿の紅葉を散らす時雨哉　莊村
多賀の宮の雲とまつ来れ　晩壺
雲とまつ来れ雲とまつ来れ　白雄
風の山けさ初雲の雲とまつ来れ　大江丸
雲とまつ来れ雲とまつ来れ　士朗
海より来る雲とまつ来れ　也蓑
尺とまつ来る雲とまつ来れ　芝麦
しるれ初雲とまつ来れ　万和
山里の雲とまつ来れ　寥和
雲とまつ来れ雲とまつ来れ　月居
雲とまつ来れ雲とまつ来れ　麦湖

[illegible]の[illegible]の[illegible]甲斐ある時白[illegible]　蒼軍
[illegible]と[illegible]と[illegible]時白[illegible]　風朝
[illegible]あ[illegible]を[illegible]時白[illegible]　東池
[illegible]の[illegible]時白[illegible]　大橋
[illegible]の[illegible]と[illegible]　護物
[illegible]と[illegible]　海路
[illegible]の[illegible]　嵐外
[illegible]の[illegible]時白[illegible]　雷白
[illegible]の[illegible]　雄蔵
[illegible]　朝陽
[illegible]　法皮

[illegible]時白[illegible]　水木
[illegible]　流芝
[illegible]時白[illegible]　庚辛
[illegible]時白[illegible]　平山
[illegible]時白[illegible]　桜宝
[illegible]　由梨
[illegible]　鈴年
[illegible]　一具
[illegible]　而后
[illegible]　高上
[illegible]時白[illegible]　阜郎

時雨　月底
出るとふる雲たゝぬと時雨かな　松什
村しぐれ星を見あぬ夕雲かな　山外
園原やとゞまるもなれてしぐれ　西馬
ふるあめ遠くはてゝしぐれかな　影左
丁ゝと梢をきる斧の音しぐれかな　見外
ちらしぐれ会釈しるもしぐれかな　其山
しぐるゝや四の谷村きつゝる　潟基
二度咎て尾ゝたゝて時雨かな　桐古
燃草に焚ゝ尾ゝしぐれかな　山方
よしぐるゝ音を生ずる時雨かな　等哉

出ゝゝゝや入ゝちらうと　松並木　成ちめ
葉ゝゝゝ落ゝ時雨は時雨ゝて　大鵬
素四ゝゝ孫ゝゝゝ小春ゝ　就ち
冬雨　みの白水ゝゝ男ゝ　色衣
夢ひとつゝ春ゝゝ冬ゝ白　眞ゝ
出ゝゝゝ春のゝゝ　柱の白　素雄
山家めく火ゝ焚ゝゝ山ゝ白　月底
椎の実ゝゝゝゝゝ冬の白　姓等
行ゝゝと松ゝゝゝ山ゝ白ゝ　一旭
初霜　ゝつ霜のゝゝさ年ゝゝ　蕉雨
初霜やゝゝゝゝ宮ゝゝ　大柳

霜

初霜や仕付の菜みし麦畑　風雨
まつ霜や橋結つけしあゝ起し　東池
初霜のおくやみちのくのとし　馳宣
初霜や博多の町の名あて　好甫
初霜や呂蔵てゝくる鮫の飯　源花
まつ霜の豆のうへ打ぬる　唐野
霜ぐもや小雪は過も地まつ氏　樓童
おく霜の湯殿の庭のうす氷　保吉
本のけとしてゝ霜豆の葉ぶ　巣兆
霜の中まつ霜ぐもの年忘れ　吾表

霜の白　風雨
霜の花　馳宣
霜の野　好甫
霜の月　唐野
霜の月　樓童
霜の月　保吉
霜の月　巣兆
霜の月　吾表
霜の月　源花
霜の月　東池
霜の月　樓童
霜の月　保吉
霜の月　巣兆
霜の月　吾表
霜の月　源花
霜の月　東池
霜の月　樓童
霜の月　保吉
霜の月　巣兆
霜の月　吾表
霜の月　源花
霜の月　東池
霜の月　樓童
霜の月　保吉
霜の月　巣兆
霜の月　吾表
霜の月　源花
霜の月　東池
霜の月　樓童
霜の月　保吉
霜の月　巣兆
霜の月　吾表
霜の月　源花
霜の月　東池
霜の月　樓童
霜の月　保吉
霜の月　巣兆
霜の月　吾表
霜の月　源花
霜の月　東池
霜の月　樓童
霜の月　保吉
霜の月　巣兆
霜の月　吾表
霜の月　源花
霜の月　東池
霜の月　樓童
霜の月　保吉
霜の月　巣兆
霜の月　吾表
霜の月　源花
霜の月　東池
霜の月　樓童
霜の月　保吉
霜の月　巣兆
霜の月　吾表
霜の月　源花
霜の月　東池
霜の月　樓童
霜の月　保吉
霜の月　巣兆
霜の月　吾表
霜の月　源花
霜の月　東池
霜の月　樓童
霜の月　保吉
霜の月　巣兆
霜の月　吾表
霜の月　源花
霜の月　東池
霜の月　樓童
霜の月　保吉
霜の月　巣兆
霜の月　吾表
霜の月　源花
霜の月　東池
霜の月　樓童
霜の月　保吉
霜の月　巣兆
霜の月　吾表

霜夜

一具　花傳
雀交
松竹
乙良
花朝
大橋
君白
丸起
晩翠
西馬

霜柱

初氷

氷

結氷もはやこれまさる氷の花　厚朝
とれば手に桶口より氷るまきゝ　蒼軌
そもそも我うけこうる暖理の氣　一具
水底のそこく氷るや械の吉　卓池
蒼浪はいとこうる小釜ゝ　紫山
釜一条深けて氷るや水鉢　林曹
水瓶も氷さまるや氣あ迚　卓郎
ふるき彩屋やこうく氷流れ　尼外
紙屋の蓑ふるう氷氣　斜雪
徽の土こうし行ふるゝ　九起
氷ゝもあ家まやの池ゝ物のゝ世　等栽

落氷　一兆
板ゝ橋ゝ氷ゝ　定任
ゝゝと橋杉ゝゝ氷　車松
落ゝあ白や小釜の落氷　淡蒼
ゝて切ゝ氷ゝ落氷　祖仁
ゝ日ゝ入ゝや桶の落氷　成美
板ゝ吹ゝ氷ゝ厚ゝ　柿居
ゝゝゝ盃ゝ厚ゝ　蒼軌
桐の葉ゝ氷ゝ厚氷　五雲
ゝの力ゝ翠の足ゝや厚氷　丁知
月見ゝゝ寒ゝ厚ゝ　蒼山
新明ゝ土橋の下や厚氷

厚氷

氷柱　ひさかたの天の川水凍りて氷柱と成りぬ人も渡らぬ　夢太

竹橋のつらつらとなる数の雫　三津人

簾とぞ人も見る柱氷　寒松

雪のけのつらつらとなる玉柳　君白

湯殿の町中を行つらつらと氷　淡史

数時や雪のつらつらの新らし　風外

生つらつらとなる地を立ちて氷　湖山

星のつらつらとなる枝のつらつ氷　等栽

氷山流れ三日月ながら氷る　南湯

晩の鐘氷足ろう湖の上　守月

川一ツ越て氷る中鐘の声　羅庵

冴

本杭の冴し雪の鐘氷る　雪象

山冴し時の鐘つらつらの声　嵐蘭

風雪や枯野の冴ゆる山の声　外六

枯野冴ゆ雪の山　万歩

うつ音の冴ゆる雪の町　風朗

冴る夜や雪ふる夢の冴ゆる　俊物

冴る夜の雪の冴ゆる　淡史

月の冴ゆる雪の冴ゆる　梅通

雪ふる冴ゆる雪の冴ゆる　書翠

三井の鐘長き雪の冴ゆる　宇翠

風蘭

凍

[illegible]

脛

以礼や二月はかまを保をなく
琴の[illegible]老[illegible]しな物の保
保の[illegible]
保やさそ屋をさそる物を蝦
保はをうを男やもれ小袖
れう保みしき袖をうむれ
紙や世をあ戒はう世き
あうう月や君うひうれて雲の之
紙や衣そ松風をさそうを
あうう はかま袖の藍うをれう
戦を見せあうて[illegible]南小

保吉
外六
夢南
護物
文界
寸翠
妻鴻
大江丸
伯壹
芦丸
冥那

寒

猫の目に寒を考へ　暁雪
雪ちらめれと考へ　士湖
ちらめれまたくやうの雪さし　樗堂
後ろ姿のうとうめ雪さし　宋英
家あうと雪くも雪やの山の陰　乙二
ちらの寒うに逃げて雪の邪　芝夜
拂ふ雪もつ伝雪さの樊噲　岱年
ちらふ雪こうのもり雪雪さし　風朗
程い雪を芋て雪ふく雪さ乳　卓池
雪雪ちや酸河　雪ちなる　護物
雪ちさうのふいと雪ちて磯家に　沙路

十八

とのはもあるこの足ゆく雪さし　朝陽
雪ちれを白の雪雪雪ひう　京郎
ちの謡ち雪ちう雪さ雪乳　竹村
常磐朱に拍本ちり子雪に　為麻
先人の雪の紙　雪の雪ふ　丁大
雪のちちを足ちのく子雪に　淡芭
領伝の戸に雪ちを病気し雪に　甚山
起出て雪雪ちのて云ちめ　由楚
壁ちの雪て子雪あち雪ち　渓雲
子ちあり雪ちて雪れと雪さに　丁知
ちちして雪い雪ちや彩世常　相湖

冬

初雪

[illegible] 成方 竹
起されて [illegible] 義俊
常盤 [illegible] 代の [illegible] 義俊
[illegible] 梅室
[illegible] 蕪村
[illegible] 士朔
[illegible] 梅の [illegible] 嘉英
[illegible] 一茶
初雪といふ [illegible] 月居
[illegible] 秋き心う [illegible] 沙鷗
[illegible] 庵の苦 [illegible] 渡物

[illegible] 義俊
[illegible] 沙鷗
[illegible] 渓雲
[illegible] 一具
初雪や [illegible] 物のさま 尺外
初雪や引とめられて [illegible] 卓郎
初雪の根葢 [illegible] 成安
[illegible] 芦丸
[illegible] 掛扇
[illegible] 蕎水
[illegible] 梅室

雪

巣を蓑ふ蓑あむ蓑虫も寒し雪の雪
イキなふふる雪の径うれ　凡董也
考うとうとうとうとて思ふ雪の笠　士朗
ふふ雪中ふる雪の涙と心ゆく　ふ彩
雪のりゆゆしき家のふ考ひ　芭蕉
迫うて松ふ生やうん雪ふ雪　蕉雨
うう出ふ出ふ出ふ出ふ出ふ出ふ雪の雪　外六
雪の釣とうふ迫一たる殿いの釣　十丈
なまけちく門ふ雪の弧ふ釣　風朗
立ふ雪ふ雪ふ雪ふ雪ふ雪ふ雪ふ雪の諸　西月
ちう術ふ相ふ柳ふ柳ふ柳ふ柳ふ雪　法皮

二十

冬

雪ふ人のふふふふふふ掃ふ川の雪　李池
あふふふふふふふふふふふふふふふふふ　梅宝
家て雪ふ杖て雪ふ杖て雪ふ杖て雪の丈　一風
雪雪ふ面ふふふふふふふふふふふふふふ　梅通
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
雪ふふふふふふふふふふふふふふふふふ　宝白
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ　杞儀
雪ふふふふふふふふふふふふふふふふふ　凡外
雪ふふふふふふふふふふふふふふふふふ　岱雲
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ　等載
原汁桶のふふふふふふふふふふふふふふ　仙竜
雪深ふつふふふふふふふふふふふふふふ　一具

深雪

志ら雪のあまり深さに宿ある　樗良

戸窓より人の見ゆる深雪かな　成美

野の庵にかくれ家の深雪哉　奇淵

風に添て風にやさしき深雪哉　万紀

あさましき雪の出て行深雪哉　風朗

行先の見えてさびしき深雪かな　虚白

我の宿て一夜居ぬし深雪哉　茂推

菊も村折にまつりき深雪哉　雪水

みほ路の足は眠の折深雪かな　仙左

うつむきて眠をやまめる深雪哉　万古

寝ずに廣見て来る深雪かな　烏山

雪見

抄の日やる瓢田の師匠と雪見哉　蘭兆

一人して降りと見たり雪見かな　可都里

戸をひらけ町へくると雪見哉　氷竹

旅もあら人を笑ふて雪見哉　李池

荷力も折々行雪見かな　完鏡

我かする一つあるて行雪見かな　江月

桐露を上さに出て雪見哉　杜鷺

銭もちて来ぬひとりと雪見かな　素行

雪の中来て出でしても雪見哉　白雄

出かけては小坂あたる雪見哉　西馬

雪見舟よき柳の中にありけり　一具

雪吹

雪志美

雪轉

雪礫

雪佛　小圓

雪遠广　雪鳥

雪車　三井人

雪岩　雪岩の人

雪竿　雪竿や

綱貫

撓

霰

霰

玉あられ玉あられ妙なる細工ぶ　士朗
うるうるとのつゝたしふるあられ　乙一
新うるう雲峰はまの社　白人
一日人の橋よりたかう雲ぶ　井眉
雲おりて社しあうつゝ雲ぶ　沙鈴
見ゆるうるとゝ雲たゝやゝ鞍のうへ　淡交
あれの雲近一たゝあられぶ　京池
野の雲社雲は高あう雲ぶ　蓋机
もあられ玉の雲のつきにたゝう　宮白
あうゝめゝ玉雲ゝ雲ぶ　舎用
鉢中盈玉あられも従ひて　等載

冬搨

清ら宮社あうゝゝやもあられ　成安
雲あられ玉搨ゝおけ玉みうゝ　外亡
野の峰つ田ゝふ里雲ゝ　巻表
雲社搨ゝ玉ゝ玉ゝ　風湘
玉ゝ玉の石新うゝ雲ゝ　清民
搨塩うゝ玉うう雲和みうゝ　石外
茨城は和もあるて雲搨　源京
雲の玉ゝあうゝ玉ゝ人やゝ　一具
雲ら鉢て玉うの中雲ゝ　山外
親村の家子淵ゝ雲搨　面あ
玉雲玉て淵もあうて雲ゝ　田鶯

北窓塞　おそかりし雨の窓やふさかれし　月化

冬籠

雨窓をふさいでくらき佛かな　慈完

掛ひろくかくふさきけり小の窓　嵐高

思ひ立て月見に出る冬籠　蕉太

蝿ひとつ家をめくるや冬籠　暁臺

冬籠古き水鉢枝に入ぬ　白雄

冬こもり焚火にこもる紙衣かな　菜史

硯箱に家人の膝や冬こもり　蝶夢

枝をこしらへ人は引けり冬籠　士朗

冬こもり柱に書る書をなして　外六

冬こもり笑ひ数拍子に人を乱　月居

箱ひとつ積て冬こもり　蒼虬

彩海苔の百里さしてふゆ籠　桐雨

竹入ての茶にふとり冬こもり　梅室

ふと起やあさきこゝろを捨て冬籠　也好

ひとり居る小すくなくて冬籠　[illegible]

紙にて[illegible]や冬こもり　淡史

病ことに猫を抱てれ冬こもり　李由

一ト間にて[illegible]屋根をふゆ籠　鳳朗

柴積や一里の冬こもり　渓爲

冬こもりけさは雀に起されし　蒼水

冬こもる垣根つたや冬の風呂　漁荅

炉開

松笠やそのかく秋を乙もり　西馬

あら海を富士まつけて冬ごもり　等栽

炉ひらきや雪中庵のあられ酒　蕪村

炉をひらきし友ひとりえし心かれ　球参

宵の間よりの時に炉を開きけり　一具

炉開や恵方より西に志賀の山　雅嵐

ろひらきや出雲の志思ぬ秋の暁　素因

ろひらきや柳をきさ新ばし　烏よし

炉開きし行燈明く思ひけり　如焦

炉ひらきや掃拭ひのきよらなん　一誠

炉ひらきや庭の落葉は松の花　由牲

口切

口きりや小城下ながら只ならん　蕪村

くち切りに[illegible]　尺文

口きりの客ら生海鼠なれ　芝兵

口きりや手に付茶の柿　立字

口きりや嫁菜かれたる庭の菊　半月

口切や山路越しほゞのままへ　餘力

口切やゆくゆく[illegible]梳のおと　一具

火桶

裙に寄て人待火桶かな　蕪村

よもすがら[illegible]のたく火桶かな　一筝

人來ぬと火桶を明らかに　三津人

ひと[illegible]火桶かな　蓼乩

[illegible]し火桶[illegible]魚の羽　大柄
常人と住[illegible]る火桶に　風朔
猫は[illegible]て、[illegible]る火桶を[illegible]る　嘉白
[illegible]も夢と抱く火桶に　柄室
曳[illegible]る火桶をさのて鏡の夢　白清
我のけも老ぬ火桶の抱くから　彩左
[illegible]をして並ぶく火桶に　盛年

桐火桶

桐火桶は柄のあるもの　孝淵
淋しさや[illegible]る桐火桶　底外
[illegible]るなくて桐火桶　風為
池竹と[illegible]の竹[illegible]桐火桶　紅白

火鉢

[illegible]桐火[illegible]　一具
いろく[illegible]火鉢に　色彩
[illegible]火鉢に　頑布
[illegible]火鉢桐[illegible]　柄室
[illegible]て[illegible]火鉢に　一旭
文字[illegible]火鉢[illegible]　双烏
[illegible]て物[illegible]火鉢に　我竟
[illegible]年を[illegible]火鉢に　布山
[illegible]火鉢に　乙良
人[illegible]て巨燵[illegible]　白雄
[illegible]巨燵に　士朔

巨燵

[illegible] 巨燒 [illegible] 嵐外
[illegible] 巨燒 [illegible] 梅宝
[illegible] 巨燒 [illegible] 宝池
[illegible] 巨燒 [illegible] 一具
[illegible] 巨燒 [illegible] 欽哉
[illegible] 巨燒 [illegible] 古嘉
[illegible] 巨燒 [illegible] 月芳
[illegible] 巨燒 [illegible] 松濱
[illegible] 巨燒 [illegible] 柳蓋
[illegible] 巨燒 [illegible] 双島
[illegible] 巨燒 [illegible] 為山

置巨燒 [illegible] 置巨燒 [illegible] 雄嚴
[illegible] 自中置巨燒 [illegible] 白
[illegible] 置 [illegible] 荘文
[illegible] 置 [illegible] 山秀
[illegible] 置 [illegible] 由楚
[illegible] 置 [illegible] 凡萱
[illegible] 置 [illegible] 恒九
[illegible] 置 [illegible] 白雄
[illegible] 置 [illegible] 宝来
[illegible] 置 [illegible] 風朔
[illegible] 置 [illegible] 月慶

埋火

埋火は炭を焼きを一人ゐる　花外
埋火や宵の内は自はおと　あ
埋火や人さまの世あ老こころ　淡史
埋火や京さくもの夢　田蕉
秋しけてやうち出掛よろつ　便物
山伏は鼻つら張るかるとも　孤泡
寒雲ゐ　淡史
海山ゐ　楊十
兄貴ゐ　を蕉
晩の稲ゐ　楊良
杉風やゐ　乙二

囲炉裏

湯婆

食

俳句や屋の湯婆はおきゐる　一具
尺一夢は覚て覚ゐ　杉渭
陸ゐ越望ゐ開きくかんゐ　蕉翁
かゐは白の結ゐ来ゐ　西馬
分ひゐは　蓼太
月ゐ新　閑史
紙ゐ屋角杉目ゐ　蕉村
ふゐ藤ゐ　士朗
浦里や蒲の穂ゐれと大ゐ　月居
あゐけゐ食ゐ屋新屋　ゐ池
生へは白ゐ　淡史

蒲団

[illegible]

紙衣

[illegible]

かゝ神をぬらして物出撃衣うれ　真宅
我神の衣なるまめ戒衣ぶ　蕉山

綿入　綿入は腰巾よりあてる相うれ　松什
うきのやなぎちまり　小竹　寸侍
うゝ入やあたゝかう寒む　嵐雪　芦九

頭巾　町うらきしてやはり小風合袋　蕉村
はゝ見えて長きさ寒し　寸法菴　春亜
朱在野よりさくらの人見る　はゝ見れ　大晋
人心ありてはゝ見はゝ　夢南
都をしてもはゝ大きく吼ぬはゝ　學湖
考うとくへもゆきてはゝ　卓池

はゝ見ぬ年はもしきはゝ　卓郎
見ぬうもの寒ぬはゝ　抱條
つを出てたのしはゝ　夷則
見てもきさなのきはゝ　心阿

足袋　足袋はひの足袋ちたゝ　蕉村
京は地をなれてあゝ紺の足袋　五岳
古足袋やあるを捨てきき　寒松
よくれ足袋めてあり今の足袋の上　小圃
本をてあて足袋もく男れ　万古
舟を出て足袋冨山の町家ぶ　一具
足袋かゝてあるの上　昌見

炭

炭やき炭を解く云　蓼太
炭かつぎ炭を洗ふ　嵐雪
夕雪や炭こなしする　許六
炭すゝとはいふ花を炭　士朔
炭やとも言ふ流る年のくれ　朱莫
炭に火や影のつもるあの通り　完来
炭に火をしめしもあるを炭の穀　一茶
炭さうしの紙をやきて炭　蓋夜
寒菊や炭焼紙を接ぎ　卓池
仮寝して心老ひやきて炭　義椎
病る子に炭あらて淋しき秋炭　老白

炭やき炭を解く云　楊宝
一具　一具
炭俵　炭俵
炭俵の炭やきて炭　炭の
炭の炭やきて炭　炭の
炭の炭やきて炭　炭の
炭の炭やきて炭　炭の
炭の炭やきて炭　炭の

めをこし出せるうちにてかとまれ炭俵　烏漆

炭賣　炭賣よ綾乃せるをんなかな　蕉村

炭賣をてゝ外あをき里く廣りかな　完来

炭賣の沈うなりてゝうけて　烏谷

炭賣は竹をさゝを結こ戸口うれ　松宜

炭賣の掃てゝも約を庭の苔　一具

炭竈　炭竈やかゝとめうれ蓄うら　白雄

炭竈とけうこけし月ロかな　芭蕉

炭竈や一ウ二ッは夕うこん　蓋机

すゝうやゝ蓄く蓄ゝ里は犬　庚年

炭うの海やのロのかゝる一ゝうう　省吾

炭の俗をさゝてゝ炭ゝう取の語　掃宮

炭かゝの節を意ゝゝうかな　等哉

炭園　炭園つく白ゝくとは蓄けて　升六

取ゝあゝる心ゝ出たゝんかな　宋翠

屋ゝうゝの取まるゝきたゝんか　杜月

をゝけゝて取ゝう一掃の音　白雄

綾の形ゝ掃ゝう掃の消ゝう人　樗堂

掃樓てゝ義經殿を異屋ゝうれ　巢兆

却てゝゝし掃人起を掃火かな　卓池

掃は火をたのゝゝう取ゝくゝれ　由哲

孫出せとすゝる掃の池をかな　掃宮

[illegible]　卓郎
[illegible]　義雄
[illegible]　風朔
[illegible]　春白
[illegible]　布山
[illegible]　春年
[illegible]　波田
[illegible]　朱足
[illegible]　石外
[illegible]　与外
[illegible]　等載

冬日

[illegible]　春波
[illegible]　擇星
[illegible]　成美
[illegible]　春春
[illegible]　風朔
[illegible]　卓池
[illegible]　嵐外
[illegible]　乙良
[illegible]　白雄
[illegible]　存亜
[illegible]　士朔

冬夜

[illegible]

冬月

冬月や行くすゑ遠き橋の宮
冬の月やはるばる渡る磯の竹　後拾
冬月や法華堂の一具
ふけ行くや月も雲ぬる方琴
冬月や歌のものと鄙ぶり
冬の歌や小閑ぶる家の中　由樹
冬月やてらさぬ心さしさへ　冥交
冬のよの月ぞ白のうへ　紙書
楪やさらくと冬の月　保吉
美しう年ぞ冬の月　恒孔
さめくよ波あく冬の月　士朗
ふるを冬の月　孤山

年入れ書所ゆくや冬の月　言義
冬の月庫い冬くし出でし鈴　千窟
なでつけの冬の大家の冬の月　吉白
市結の蜀玉の清きや冬の月　伊朗
のこりをしくてるし冬の月　林曹
庭の冬の月出でて雪の分れ冬の月　白清
吟風や池のかしら冬の月　紅鈴
老行くはるかに冬の月　由樹
清き冬はまもく冬し冬の月　成方
冬なれて冬の里や冬の月　未丘
雲をのこる光りとる冬の月　読方

柘榴

山を越て人々に別れて柘榴に
犬蓼に咲て赤き柘榴哉　　莽村
人面の如き柘榴の皮乾て　　曉臺
むつまじう住やもろ〳〵の一ツ家　　蓼太
酒のごとく行や柘榴の一里塚　　樗堂
あるも赤くめかるる咲柘榴哉　　蕾三
四方うち日は暮ぬく柘榴哉　　吾表
九月のうらあきまつきの柘榴哉　　寒松
夕月やうら屋あるを人のみち　　月居
行雲に柘榴ぬくもう俤き柘榴哉　　春渕
柘榴ぬ仏を抱て人間の　　蓼風
一具

菜畑や柘榴の赤く二三枚　　由聖
稲妻に風はめまとかれ柘榴哉　　淡路
大地を中より暮る柘榴哉　　徳之
かくて実く赤て実行柘榴哉　　蓼山
深く蓼の蕾ましき柘榴哉　　其山
かれ〳〵て池の底まで柘榴哉　　可大
柘榴を出て日はぬくき柘榴哉　　白孤
笄書小さうとそうる柘榴哉　　卓郎
垣もなく庭うる直き柘榴哉　　山方
小坊主の人と柘榴行　　沙弥
首ばかり仏るゆるの柘榴哉　　波国

枯野

古道は麦まきて川原に枯野かな　九起

よしみちのあとて暮まる枯野かな　等栽

我かけをうつくしと見る枯野かな　龍古

かれ野の錦にまけし足二本　乙二

かれ野や迷ふ給ふ長木像笑　可楽

かれ〳〵野やくるまの雲の象二軒　淡叟

かれ野や犬に追はれて塩瓶　文里

かれ野や細き流れも丸木橋　栽夷

冬野

人かけや暮れて一人小あき冬野かな　巣兆

冬かれて鳴鹿けゝる冬野かな　外六

ぬく〳〵と日かけにかゝる冬野かな　武陵

冬枯野に葉て月見る一人かな　杉夷

冬山

冬の日や蛇に挑し人あまた　祖仁

山本々とかくてさまゝ冬枯山　月化

かくれなく重たるあわや冬の山　棟夢

秋さへ風になりて雲まり冬の山　雪山

日を風の中に葉なり冬枯山　夢外

裸木に日かぎりあしや冬の山　芦河

まことらしの日のかくれなる冬の山　一甫

あのあきまてあつや冬の山　魯心

山眠

見る家も山の眠りを揺しかり　由翌

冬青く寒く晴て山眠る　瓦村

冬田

鶴の徑もしと時雨降る冬田つら
ひろ〳〵せの日和あつまる冬田哉
わたらくと松越蔦る冬田うね
溝〳〵素風和くる冬田うね

三津人
遊物
沙鶴
中月
滑菫

冬川

風ふけやうそうて行く冬の川
冬川や竹のあゝ橋ぬけさうな
後も煙うゝかすれる冬社川

橋月
竜外
芭蕉
文路

冬海

見ふけより水の丈あり冬社川
芭蕉て宗岸尺とすれ山の月
まとまりて日の光うゝ冬の海
月ふけるうら淋しさよふ海の海
宗とそうゝ丈たゝ浪ましく冬の海

晏宣
松竹
素石
雅窓
三恵女

十一月

年もたけや十一月や小田の鶴
山里や十一月社磐古笛

由梨
晩翠
角よあ
風角

霜月

十一月松二月ふれうけ
霜月や鳥あ鶴の鶴月和
霜月の素堂五日ふ月

芭蕉
素堂

雲母もこゝにあるべきものなれども雲母
なるものを雲母やの小庵に
雲母や梅は正本社屋敷屋敷
雲母や麦は麦畑の五歩三歩
雲母や常行人社正うなる
本子の絵もこゝに見るべきの日
松ようも雲ようもよるべの秋
はあるべ中よるべのうけれ
籠雲を海山を歩まるべ
黄しうるべ的清るべ
ものを餅を書きまいてみるべの

梅宝　月庵　風外　山肯　由聖　太蔵　玄長　月居　寄測　大梅　雄嶽

冬至

暦賣　いろくゝ進まる年を暦賣　白雄　吉菊

花の時宜をなるべ暦うを　文路

まるべ年をを新中暦うを　梅山

黄色なるをんせを暦うを　子を

子を暦くゝるべいの見暦賣　多よあ

ひの梅を見人立うう暦うを　京邸

数量　数量やひとを咲て扇うを　蓼太

数相きの梅の見きを稿れ　一具

夢社ものを数量淑し笑歌　来巨

数置物いろいろの道具を載る
数置物いろいろけなるを盛のうへ
袴置
袴置物祝ごとなるより清のうへ
袴置物多くなるとき物のうへ
袴置の高さ短冊をそれぞれ
袴置物幸ひ座の板のもと
袴置物ものつきなる角切り
袴置物未彩色しき紙
袴置物幼さうな感じの眉
ちさきものを活るとき袴物
袴置物いろいろのうるはしきうつき物

松葉
坦々
巣兆
一具
祝に
益光
万代
咸古め
袴宮
道流
坦々

ふる出しうて小盤にうへるうつき物
子祭
子の日の子餅とする鳥帽子祝
子の日の神代の物語
子の日のうつる影のなき灯台
子燈心
子の日の燈心
子の日の人形
子の日の子燈心
子の日の子燈心
二度ゝ出て夫婦の置ものを
彩磨置ものをまとる燈心

巣兆
月居
金芝
咸古め
芝表
雄家
護物
自定
千号
一具

御火焼　[illegible]

吹革祭　[illegible]

[illegible]

鍛冶　[illegible]

落葉のうけてあり鉢たゝき　蒼虬

鉢たゝき出ぬ夜を知れハ縁のきく　鳳朗

声も重きものゝ哀やちゝ叩　由誓

やつくしと旅人のいふや鉢叩　而后

月更てふかきのなし鉢たゝき　一具

去川よりし夜を門立て鉢叩　烏友

扇ふる身夜うちる鉢叩　蒼山

のゝ月ふいてうちやらせ鉢たゝき　烏岩

墨染める筆さして鉢たゝき　梅通

大師講

大師講所とハ寒き夜之けり　白雄

元よりあてまつけし大師講　楚湖

くもりの静かに大師講　羽人

二三寸雪ふりつもる大師講　牛月

海あれて鯨もとる大師講　一具

神樂

ちしきりを志らしく契りし神楽　几董

夜神楽や松を志ろしの灯の影　二柳

鼓神楽や霜のこぼれを鬘の露　嵐外

くもりきを西の空なる神楽哉　鳳朗

すさも荒ちや来神楽かな　霞松

篠笛の音まくぬる神楽哉　丁知

事志けき神楽の跡や五位六位　由誓

家子ふる笛も聞えむ神楽哉　梅室

里神楽

笛並ふき隠り行や里神楽　月化

里神楽風しらて更て冬り　長蓑

六代によ書もよ摂里神楽　月居

かゝり火に松の雪や里神楽　一具

顔ならき紙なるへゆや里神楽　一幽

往るり行桜もあるよし里神楽　烏よめ

月暮と花松のまへ出てり里神楽　祇口

誰か袖のこうんや白よ里神楽　為山

並居

顔見世

顔見世や既に浮世の飯時分　蕪村

白見世も人に素抱く躾かけ　蓼太

白見世や見舞慶に梅咲きれ　菖三

納豆

白見世もちゝめ花咲きよりかゝ　雄花

顔見世や姉の縁の急すきる　湖蓋

納豆や打たた音てあひと足　午心

きさみこむ梅の香や納豆汁　月居

浮庵に文見さあて納豆汁　蒼虬

打く納豆は純も納豆に　鳳朗

好嬉あくの納豆の不浄この　寥白

くすり杯の傍にあり納豆汁　逸渕

桃の湯軍歌の酒宴や納豆汁　梅室

小原風にうしくもや納豆汁　石外

風きたに戸や世わひくら納豆汁　宗子

出し舟に[illegible]納豆汁　清蕗
青こんの雲丹納豆汁　乙国
庵の名も見えをり納豆汁　年沢
いとしさの[illegible]の細豆乳　由菱

風呂吹

風呂吹や蕗の中より一ふり　月居
風呂吹や新しけるも保養　紅化
風呂吹や[illegible]戸を出て俄雲　等載
風呂吹や人を指野陣ふとし　由菱

干菜

たくさんに見えを庵の干菜　蕙太
りんごの[illegible]きさ干菜　好白
牛部屋に見えを約干菜　長城

つゝ一菜に留る細し　佛の竹　卓池
松風やけし一ふり約干菜　遠流
最上風の[illegible]干菜　徐力

浅漬

沙つけの留る遠面る男乳　蕙太
流迄も浅つけそく白ひ　越表

沙漬の味も近江の出居　由菱

蕎麦湯

鍋の[illegible]湯　蕙村
とろ〳〵と心[illegible]　外六
[illegible]と[illegible]　永文

貝焼

貝焼や[illegible]　也翠
貝焼や牡[illegible]　嵐角

鶏卵酒

[illegible]

生姜酒

[illegible]

藥喰

[illegible]

師走

百姓の杉戸屏風に師走の
形風に吹きまくる三さまく師走の
人仙人たちの師走の姿うれし
野末のの中河辺にたつの白
波先めく文の中果武斗流の斗
記やの屋敷に枯木河辺の
流水を尺で寄て梅の河辺の
人こころ半ば雀うつ河辺の
人の竹に紙を張る河辺の
鶏に問ふ師走の
師走めく屋の中鶏の使
乙良

臘八

小坊主の出家せしより師走の
梅の花山の谷の中に咲
き出る人のよるも師走の
雪一度消て師走の月数の
臘八の中の月の数人
臘八の中鶏の鳴き出る人を誰
臘八の中うつ鐘の音
臘八の中生壁つくり
臘八の中石掃て庭掃除
臘八の中ちまきの数の
臘八の中ちまきの数の
臘八の中ちまきの数の

荷合
杜鵑
乙国
鶏斗
策文
月花
迷河
鵬花
雪河
高麗
一具

事始

御佛名

寒入

寒中

寒垢離　寒垢離を唱へ来る　茲村
[illegible]　年心
[illegible]　老淵
[illegible]　淡交
[illegible]　亘来
[illegible]　尺文
[illegible]　老爲
[illegible]　月居
[illegible]　意白
[illegible]　文叙
[illegible]　万比

寒念佛　志ゝ雪の中なる念佛　蕉太
[illegible]　存義
[illegible]　完来
[illegible]　意白
[illegible]　一具
[illegible]　往文
[illegible]　護物
[illegible]　号河
[illegible]　号栽
[illegible]　成方

寒水　寒の水紙法の樋高雪き　嘉重
寒紅水泉は掬をすくるる　寛兆
汲つまて沸まる間てやきの水　多栽
寒晒　寒の松のあしやきし　子野
寒さしし光やこの世はさ　升亡
月寒の白をこめる寒さし　田月
寒紅　寒の紅めてきさりて上もなし　升亡
寒人の唇をし寒は紅　丹芽
山鳥の書もかるやきの紅　山兄
寒見舞　寒酒の紅あるやうに寒見舞　波同
きうもよし届けも郷や寒見也　為山

寒空　寒空や鏡は乳見ゆる西あるう　長翠
寒空は乳見ゆる　寒空は乳見ゆる　寒梨
寒空や鏡ゆるし　寒空や鏡ゆるし　李梨
寒月　寒月は新しかるなるけ　晩志
寒月や四つ寒き青はえ　蕉村
寒月やうるとは鳥卵売　大江丸
寒月　寒月の乳　士朗
寒月　寒月かる乳や義の　青渕
寒月や柳なるかるの　成美
寒月は加茂もひとつ小家　蕉帆
寒月や鹿丁は人納屋の　風朗

[illegible]

寒雨　書びとの[illegible]
[illegible]猫の背分ぬしぬ[illegible]
[illegible]ぬ雑[illegible]
[illegible]
[illegible]一羽四[illegible]

[illegible]　板室
[illegible]　藤袋
[illegible]　幻蓑
[illegible]　為山
[illegible]　白雄
[illegible]　長翠
[illegible]　渡物
[illegible]　呂川
[illegible]　惟孝

札納　[illegible]納　重厚
[illegible]　[illegible]　[illegible]
立柱し　楠の[illegible]　札納　蓋宇

古暦　[illegible]　古暦　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]

衣配　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]

煤掃

衣服を洗ひて干すべき所へ
衣をうつのつるはぎのひまあ
梅の香もたゝみ出す衣くさ
あつうあつうあるは山や衣ぬ
返す待ちは世のうつや衣配
煤掃て雪は寄はにこの孔
ちゝちゝちゝや秋ちゝ吟ちゝ
す掃や樊尖を高のあるる
山市や寺掃家はあさのを
寺掃や蝦ゝ姑ちゝやちゝ
寺掃て体て常の掃除ぶ

遠湖
あとあ
尺外
乙良
由樊
七翠
士朔
成美
寺湖
白坊
風朔

時ちゝ見新中樊下の煤くまり
庵は煤筆
す掃は寺中小家もの一ち
めくいり中ちゝ出て煤掃
寺掃ゝ汲井ち果ちゝ
庭人のちくちゝ中樊ちゝ
渕ちつもりて独ちゝ樊ちゝ
す掃て世ちゝ寄ぶ
新ちつふちて二日の樊ちゝ
も旅あちて番ちゝちゝ
す掃て行ちゝ

然年
年池
影九
而后
由樊
蓮宇
波回
塞ち
成ち
九華
柳宝

節季候　拙久しうまうでなり若年は　琴太
等らうのそうしにおけ若年は　一学
せきいろよりあのあれ人も多り　咸英
若年はやもとあるを連て　蓑帆
若年はうあ家略ふまれ　四九　布席
せきいのつうれ見せんたうは　庚年
せきいはきあ一文うあ　多見
若年はやせ一き町をかあ　多何
若年はつうあ毎年の長さき　蓑山
若年はうあまの松の多雑ぶ　由楚
陣宮のかうあ清あ若年は　一具

婆等いつすを若うて紙寄ぶ　木海
婆等くあきハ紙うあ紙し　京金
見よはあせて生きし婆寄ぶ　色江
年木　井ろれやみ枝ぬ年木ろう　蓋村
ながきうあ年木ろう　恒九
春年春やあ年木接ろ毎社百　巣兆
紙ろ変ときのう年の京　完木
年木つうて風みにふる年木れ　浅文
つうて雲ろ雪ろ年木れ　柄文
あうろ雪ろれき年木ぶ　あよ
変のやう接ろ年木ぶ　杜琴

年用意

年忘

年市

節分

[illegible]

一具

[illegible]

万代

[illegible]

風巣

[illegible]

由緒

[illegible]

園更

[illegible]

蜘蛛

[illegible]

升六

[illegible]

風朔

[illegible]

性俄

巣兆

[illegible]

升六

[illegible]

護物

[illegible]

風朔

[illegible]

浜吉

[illegible]

戦雲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年内立春　師光なりし春毎に年内立春の句を作り侍りしに

家和白くしらゆる朱雀の年の春　左近

年ぬちの春立てはゆるみの表哉　小義

春立てゆるあてもん年は内　あよあ

春立てん梅や年はまさけ梅　一具

餅搗

餅をつく家ぬしかなりけり　月居

餅つきの手水うつくしや田風　田風

もちつきや義の門なりし新屋の刻し新　一具

餅つきや門田は屋の刻し新　屯茂

餅つくや雪ふる雨の夜ふる　二丘

もちつきや雪ふる雨の夜ふる　梅宮

二三所星月夜をかりけり　西月

餅送　書かうし吋より清し餅むしろ　蓼太
炭つめて冬ちかくもぬ餅むしろ　寄洞
四方屏のやうの歩行やのもち芭　鵬居
梅さくもせぬる山家の餅むしろ　宮白
小ものゝ形てあるやの餅むしろ　梅笠
面ひらてかて炭をや餅むしろ　影た
蓋形まを匠猪ふまくや餅むしろ　あゆ

餅花

もちゑの糸うけてちあてられ　一茶
もちゑや二足三足あるく　大鵬
もちゑやつんて指ちもなし　未木
もちゑやもあてさてて盃の上　梅便

もちゑやかつて来る指のうへ　惟子
掛乞
おれのうけゑうくやひの一山　茶更
うけゑうんせて去きんつの山　三徒人
鉢乞はまきうは仕事やは那ち　一具
うけゑの翻ちうくしふ　天越
鉢乞やはやても指一つあひき　ちうら
うけゑや四五杵といふ足結うけ　祖口
きうもうう一鉢乞ちうん　小盃　中聖
喜結
喜結といふんうある寄加えれ　三徒人
ちうをまつ心ゑ走乞や　新ち　乙二
喜結や糸とちうとふうう速　雑衣

一具
系辨
殊弓
竜柳
天起
一甫
京郎
曽志
万衆

寒近

行年

年暮　草芦袋のあるむつのやまの名　蓼太

さゝもくと年暮るとての一日かな　士朗

年暮ぬ咲ものこるとこなつ哉　成美

小姫はまつ〻〻やとの雪　寒杉

梅の実梯もせずやとはれ　巣兆

沖は帆を世を離れとうの雪　一具

行ゆくも先そうよ一年はれ　而后

汗のなるこゝあるやとの雪　助宜

桐の白雪こゝあるし年はれ　白よめ

とう雪のなきもなきも一年の雪　黄山

雪ゆや能の黄さゝゝ　阜池

鉢ゝつゝし屏風のうけやまの雪　為山

却ちらくゝ雪しらとの名　成方

龍の尾はゝ結く年ちゝれゝゝ　梅宜

年はあれ雪のとり一大ゝゝの名　寸翠

年もゝやゝ後ゝん和ゝ朱の白ゝ　雅歌

竹ゝ線ゝを年の名ゝやかゝ里　伯壺

ゝの白ゝれ小ゝの名ゝ名　五竹

をむとゝなゝれと年の名ゝ　中梵

年尾　年はゝ尾の古ゝもひゝゝゝれ　宋翠

とゝの尾やゝれゝゝし年雪　梅令

年はゝ尾や眼ゝゝゝ古ゝ海の風　為山

年社尾や空より見ゆる種の春　文路
とものをやうの庵より伐る庭社竹　好甫
年惜　只春を年をむとて買ふ　樗堂
とをしむと宵先生より酒の子　仲六
ゆけ春を酒ゆて年を惜む人　阜池
ふるさとのたらひををしむ　一具
みとり子社宿点うつくし　大みそら
大三十日　大三十日大きな重の海よりも　士朗
四月ゝいつなるそて大三十日　邨岳
いつもより社ちいのゆや大晦日　あよあ
はのもとを自慢ゆうし大晦日　美父

梅の蕾るは年を大三十日　波回
庭庭へ出るとくや大三十日　万像
みの出るは知よ溶ぬを大三十日　守角
いつよりもきくるの大や大三十日　雀文
相殿や梅社ふるし大三十日　一具
大年　たとしや望ちそ見ゆるよりは山　仲六
たとしや夢ちそ春を家の病床　好雅
大年や行ひとつ中座安　英山
大年や掃て人切る一座安　完仙
炉の庭大年とくなるとり　粗文
大年やちろ社そのの社尚　風尚

年夜

除夜

保吉

井六

雅宗

甚言

乙二

芳之

杉宝

等哉

井眉

除夜のまくら屏風のかな

一具

たゝみまくらに除夜の夢見かな

水竹

廻板の寄もたゝり除夜の鐘

伯竜

そのゝ今宵除夜とうとうと

由梦

おもゝもの冬ゝ紙ゝ夜かな

夢太

冬ゝ

岡見

月居

雪舟より冬ゝ山ゝ

護物

四ゝとのゝ海ゝ山ゝ

太鼓

鐘つゝてゝ男ゝ山ゝ

性竜

山ゝおもゝひゝ冬ゝ男ゝ山ゝ

南根

あらゝゝ冬ゝ一人のあゝ冬ゝ山ゝ

由梦

和布刈　神事

和布刈神事ありて神の宮あり神事終
りて宮やの和布刈を海にて宮原取
人行ものこれ和布刈の海時令
和布刈姫を神代の時令
神事ありてあるとき和布刈
ゆるく宮のあたりの和布刈
年籠　年籠行中一夜宮
年籠行中一夜宮
居住所の南ゆうと能
参詣ことと竹ち年こうう
まうものもこれ和年籠

長野　白雄
瑞馬
荘文
丁知

落葉

行人のあ　ちこちに落葉
野に和歌浦　こうさ和歌浦根の上
きの江行こうみさうも落葉
朝夕のかくれもせず落葉
みちに行相　ちて立ちもこれ
一ちく冬のうちく落葉
あきもきこうる
こうつくや宿柳きも村落葉
恵心堂を行こうる落葉
ひとり庵あるく屋根に落葉
野のうちんて行ちうる

長村　士朗
成美
万和
三清人
寿湖
月居
巨夫
巻帆
風洞
東池

二りあまり庭より数こ義菓の大梅
弐拍瓶汲て小梅
面白うち町家付ける義之の赤豆
ふうれ葉て多物る義菓の梅宮
てれ魚とつて義菓れ卒郎
をうふしをうて最の義菓れ有芝
ふをまををうく社義菓の天地
数夕の付すも強し出ちれ一桝
分をまをのうを自社義菓の而后
日あうへ出て義菓の夏の
ちをうを温泉より義菓の甚の

梅一本ふて義菓の小庭の城ヶめ
一坪の空地梅ふを義菓の林黄
魚付うく梅より洗む義菓の逸洲
赤飯ちを つて海苔の菓の富三
山ちなくれを義菓れ外六
小坊を風のひの中菊菓乙二
海苔菓赤ふみを家より風洲
りをうけを逆ふて咲寿の菓の月屋
黄て赤つ而ふの赤菓れ沙羅
義つくとふて咲寿の菓の源芝
義てうう稲咲て赤菓の男兄

[illegible]

而后

[illegible]

相漁

[illegible]

等載

散紅葉

[illegible]

一葉

[illegible]

風洲

[illegible]

白鷺

[illegible]

六鵬

[illegible]

幻芝

[illegible]

一具

[illegible]

柳通

枯柳

[illegible]

蓼太

[illegible]

白雄

[illegible]

士朗

[illegible]

[illegible]

[illegible]

柳枯て百ちのき町の街道　多武
枯なりや葉柳よせる葉の垣　樗堂
低らく葉うへ枯くれ　一葉
芒葉やおあ沢あくせん枯うる　風朗
葉枯秀の風とかうまて枯くれ　碓氷
うかやや枯くも白人庭のきく　舎用
并うれる枯うう葉枯逝蒼　甚山
枯なうう秀うう立葉のちうる　仙鬼
萩枯て枯の月萩の去うれ　李葉
枯ううやや風うう風うのう　乙二
野の秀枯庭つ庭枯萩　厚朗

枯葉

枯萩

枯芒

枯萩芒枯うう　志丈
うき枯て枯ぬき月うう枯ぬ　梅室
枯萩かしくうう枯ぬ萩の秀　晩妻
秀枯秋て野うかうて秀枯萩　什久
野ううう秀枯萩枯萩　洒朗
萩の種の種つくうと枯うう　糸迎
萩枯て芒行くうし小池ぬ　叶月
うう芒うの時うう萩枯萩　夫則
ふう秀ふく川洲の芒かう　樗室
人ひうう秀ふう川ふう枯うう　一学
ふうかうう枯萩すうき　高洞

柳枯て百ちのき町の野辺　為永
枯葉　枯なりや葉押よせる葉の堰　樗堂
低らく葉やいとへ枯こなり　一葉
忘れ葉やおもひあるせん枯こる　風朗
葉枯季の風となりて枯こなり　破蕉
ちるや枯てもなほ人庭のきく　舎用
年ちるる枯こなり葉の延蓋　甚山
枯なるこ季を立葉のちるこ　仙鬼
枯葉　葉枯て枯の月枝の古これ　也茅
枯こなりや風ちるこの二　乙二
野の冬枯こ庭つ枯葉　風朗

さび葉ひとちる枯こなり　志丈
もきき枯てきけあき月をこれ　梅屋
枯萩　かるくこ枯より細き萩の秀　晩妻
冬枯来て秀もかるこそ等枯萩　什六
秀ちるこ秀ちるこ枯こ枯萩　風朗
萩の種の細こつくると枯こなり　糸迦
萩枯てまれくこ枯しこ池　叶月
うきさりの付こきて萩枯る　夫則
枯芒　ふるなくこ川洲の芒かな　樗堂
人ひとりこ芒こ入こ枯芒こき　一葉
ちるこかこ枯こ芒こ枯こ　奇洞

枯尾花

紫州は紫ふきまきれ枯尾花
中しら枯つくなるぬ枯尾花
尾花枯て心ふるさとうれ
年ふる人ぞ紫ふ枯尾花
一ぬる枯色の末る尾花ぶ

然く
色白
而后
あるあ
海苔
柳宮
蓋村
咬壺
士朔
色表
蕉雨

さきのく枯ぬるうけ立ぬ枯尾花
潮さをまなれてくし枯尾花
まひ〜さら賛てあるら枯尾花
かるくとしくゆもかも尾花
あるるの色潮しら枯尾花
枯れまれも西もく尾花ぶ
ゆらけ枯て尾花はしのし
あるんまて打寄なる枯尾花
一まらて潮まら〜や枯尾花
州あ枯まるなるけるかも尾花
望のけく枯の咲ぬ〜ら枯尾花

月居
蓼凡
大梅
風朔
卓池
多
多陽
白
白路
彩左
為山

枯芦

枯芦や尾花の中や枯荻苗　成方
枯てさく新芽をうつす屋敷哉　嵐雪子
枯芦や町うつしゆる枯屋敷　梅宮
里の細道ゆきさき屋敷や枯屋敷　乍
枯芦枯日ゆくそれて流れうつ　冥史
雪乱る川瀬の芦は枯葉かな　曉臺
枯芦の蘆おる芦の枯葉かな　士朗
枯芦や雲のちらつく風枯紅　乙二
枯芦や流れうつる枯風の船　芝夷
枯芦やりも夕雲枯舟横奥　一具

枯芦や乱れ枯葉もよき　風洲
枯てうせ枯てうせうり池の芦　太木
芦枯てあるよ風ふく　浪う丸
八重むぐらかくれなりけり　白雄
むぐら枯て尾遠されるる家かな　七峯
舟あるてくあるあき　春一や枯むぐら　意川子
月しろ枯てくれし枯むぐら　ちり紙
二度と芽出さぬさきの枯むぐら　風尚
庵の夜深るとよ枯よけて　有芦
枯蓼　ゑて蓼枯て源くるかなとうり　七峯
蓼枯て流せよ庵の墨　蓼帆

枯蓮

枯蓮や大釜ふせて由来書　風洲
枯蓮や雪降る音は見こうて　祖仁
枯蓮やかはめを絶し宮のうく　一具
枯蓮のあまりとくハ枯るる　色麦
蓮は枯葉ものこり池の蓮　雄峯
かはと蓮や見を留とを枯立　透湖
むきくと枯て蔦こまちまち　波郎
ふるふるとりてかて蓮　万古
枯蓮や小雨ふる人は新　清菴
枯蓮は見うや見の多ふる　由聖
枯蓮や見の多ふる　杉什

枯草

枯草や鶴のあるや中蓮の中　杉函
枯草は葉やかはうて枯ふる　春湖
枯草や鶴ふるく碑は乳　言葉
枯草や新ふと見ふる牧は駒　葵湖
かはふるふる外ふる枯面は　雨塘
枯草や中は枯ふるふる　寒杉
枯草や為ふる高ふる立月は　洲風
枯草やあふるふる碑ふは　雨の大
枯草や見蹟はなくて屋ふる　二象
枯草や枯戸ふるむ新月秋　由聖
冬枯　士洲

冬木立

冬枯の葉なきなら木の葉の畑　撫子
冬枯や山の方々日はくれて　芭蕉
冬枯や丁子屋の門の明　升六
冬枯や竹のうねる里なれし　漫々
冬枯や捨られたる田　阜池
冬枯や葉なき立山　一幽
冬枯や池一ぱいの夕あらし　蓬宇
冬枯や隙よりうつる鐘の音　杜鵑
冬木立月を海を忘れけり　英村
出るうち一葉一葉や冬木立　士朔
山里や門なくて冬木立　蒼三

冬木立　之清人
一林そそりたつし冬木立　蒼虬
烟あるそれ物ゝ冬木立　雲白
冬中や家あるて冬木立　丁知
碑ゝ眠ゝ見えて冬木立　龜洲
小鳥ゝ枝ゝ冬木立　滑蓋
葉和ゝ冬木立　淡交
葉ゝゝ冬木立　己午
寒ゝ氏ゝ冬木立　龜洲子
冬木立家ある所ゝ　万古
葉ゝ里ゝ冬木立　一具

麥蒔

麥蒔ハ秋の末ニ八十日ばかりの内ニ蒔ベし

蕎麥刈

夕山中ニ蕎麥を植てものの陰ハ
そばの花ハ絶て咲ずとなん
そばの実熟ハ黑穂ハ黑みもちて
そばの皮ハ黑きこと物
大根蔓

ひきまゝ和大根の葉のあらし物
也ハ車ハ物せ和大根ひき
和ハ山ハ和和大根ひき
蔓よりまゝを踏るあとの大根ハ
蔓白を男人のせハく大根ハ
稻舟ハ四を乾ハ大根蔓

添ハ和ハ
麥ハ秋ハ百ハ生ル
麥ハ里と山とハ
四ハ麥ハ國へハ
麥蒔和ハ西ハ
麥蒔和ハ麥の木ハ
麥蒔和ハ山ハ
麥ハ後ハ人ハ
何ハく
麥ハ和ハ
麥蒔ハ

田楚
莊村
存亟
乙二
沙路
水竹
風外
岳陰
由楚
一具

[illegible] 大根蔓 旬先
[illegible] 大根蔓 板室
[illegible] 大根蔓 卜山
加茂川 [illegible] 加蔓 文蔓
蔓屑 [illegible] 大根白 [illegible] 雲鮮
[illegible] 大根白 [illegible] 而后
蔓 [illegible] 大根葉の賜 大根乾 素行
[illegible] 大根蔓 [illegible] 大根蔓 [illegible]
[illegible] 大根蔓 [illegible] 大根蔓 有[illegible]
[illegible] 大根蔓 大根乾 卓郎
[illegible] 大根 [illegible] 無根

葱

[illegible] 蔓 [illegible] 蔓 [illegible] 蔓 [

水仙

水仙や根ばかりなる葱の末　田螺

水仙や根はうるおひすぎてつゝ　蓼太

水仙や大仕合はきらくしく　一蓼

水仙や野卵の売る風の吹　李葉

詰吟て寒りひ拵うり水仙売　三清人

水仙や聖よあるを尼も呂好子　蓼紀

水仙や根はうつくしまれて市く笠　雨夫

母寺とふぬりを竹ゝ水仙売　麦白

水仙や主きうきうをうるうう　原明

水せんや鯉ゝのせ知く蓼のうへ　雪河

ゆくしりて暗い自ひやゝ水仙売　如風

石蕗花

水仙や所家を村ゝう塀付きて　高山

水仙のうく尺ほどさきうり　丁知

いろんゝもゝ戸さゝく窓やゝ水仙花　雪水

筆州ゝ家ゝも咲て水仙売　等哉

水仙や所家ゝ乳ゝ　ひと摘　秋古

きひゝきの眼付ゝうゝやつゝの売　蓼太

りゝ付つゝきゝるゝうゝ陸ゝの売　芝光

尺ゝのゝ行ひしゝうゝの売ゝう　月居

筆きゝゝゝ主神きゝうつゝの花　由梵

石垣ゝゝ義のゝ売ゝく　汀ゝ乳　蓼紀

ゝくゝ付ゝ塀ゝ付ひゝ和つゝの売　護物

淡やうてやれめりのあつたの花　淡皮
義掃子はうきうつたの花　里源
枇杷花　白梅
ひたの花　万和
さんしやくもりあたれすひたの花　針六
枇杷の花　大梅
ひたさくや一ちやうつゝ咲き花　朱木
ちうはたくさんちうひたの花　朱木
我ひたうの後と枇杷の花さうう　白
杉竹はさきたれたひたの花　等載
ちあうもみたさうひたの花　由哲
りのみけやゆをたつきひたの花　一具

掃苔
菜花

掃苔の花　掃苔
菜はたの花やらも菜も花朱　苔村
菜はたの花うたんものを舞鼠　白雄
菜の花はたの花ちの白の白　士朗
花さくをとうえるやうや古菜朱　白
ちうぬちうみやうや菜のつを　万和
人ちを見て菜の花をおせう　牟池
菜の花や四の鶏もなくの和　朱足
菜はための鶏や利なもなし　由哲
菜の花はは下掃出をや鶏の花　一具
菜はたやらちうを家はは　尺山

八手花　梅宮
一具
三津人
遠洲
為家
附重
月蔵
一具
岱年
大九
源洲
坦々

梔花

梔花

一具
家也
月居
成ぬ
就ず
家文
白雄
牛心
赤槃
巣池
岱雪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冬梅

[illegible]

寒椿

[illegible]

寒菊

[illegible]

雅景　万景　丁如　為山　為吉　彩花　茂村　恒丸　樗堂　吾表

風朗

冬梅

護物　田楚　風朗　参帆　法受　庚年　文起　拙誠　冬梅　為よあ

一具

冬至梅　庭の冬至梅　皆伊勢人の冬至梅　士朗

[illegible]　[illegible]の日数や冬至梅　[illegible]志

梅を[illegible]　[illegible]　秋[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]梅　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]梅　田華

宝暦梅　人も家のつゝあうちなり宝の梅　風角

宝の梅本[illegible]　[illegible]　祖仁

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]村

[illegible]　[illegible]　[illegible]梅　一具

寒梅　[illegible]梅を[illegible]　[illegible]村

[illegible]梅や[illegible]　[illegible]　[illegible]

千鳥　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]村

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　義稚
[illegible]　大伴
[illegible]　万葉
[illegible]　嵐外
[illegible]　宮白
[illegible]　梅酒
[illegible]　林蓼
[illegible]　白鳥
[illegible]　双鳥
[illegible]　守耕

[illegible]　其山
[illegible]　淡島
[illegible]　英山
[illegible]　梅宝
[illegible]　写載

小歌百首

[illegible]　宝文
[illegible]　英村
[illegible]　士朋
[illegible]　成英
[illegible]　三伸人
[illegible]　風為

水雪

作りてこつりゆやかに萩多
茶塚より附そなえて小萩多
多多和蒼浪敷て山の縁
多多和さまかう見そうもむく
多多和百姿なるゝ弓筈とる
多多ゝ計ゝ雄爾の宮屋ゝ
多多れ計ゝ見えて浮ゝゝ
多多ゝ計ゝ見れぬるを一塚の杜
水多計いとかめて立ゝ敷ゝ
水多の姿ふとゝゝ見ゆゝ
多多和ゝゝゝゝゝも舟の見

可淡
梅宮
家文
院壺
蓋材
色表
乙二
東池
由契
一具
杜鵑

浮寝雪

多多ゝ萩ゝかゝせて峯の月
多多計浮本多ゝ和ゝ
一羽見ゝ稀ゝ多ゝ
多多計明ゝゝゝむ湊ゝ
多多和ゝゝゝと和の更ゝ
ゝゝゝゝし人ゝゝ浮寝
多計ゝゝを浮寝と思ふ
宮ゝゝゝ結られて浮寝
梅つゝの物ゝゝゝゝ
杉の葉計ゝゝゝ和浮寝
月ゝゝけのゝゝゝあて浮寝

梅宮
淡雪
由清
一路
就吉
万都
年桂
由契
一具
多ゝ
風外

鶯

春なれや池もまことに浮寝鳥　樹室
背を寄めたるもまた浮寝鳥　砂山
ちらちらくやうなりきれる　糸木
刈萱をすきうきれる　紅江
矢をつのて舟をうきれる　樹室
ちちりわと言て浮寝鳥　石外
却すなけるの浮寝鳥　成吉
里見て袖をえ付ける　蕉村
ちゆかれ一言加ふ　白極
ちちれ却のをきんをきぶ　月岳
ちちと一枝とられて居をれ　大江丸

浮寝鳥屋をぬをの苫ひぶ　樹室
取をうらはをうつをを吹をを　蕉机
ちちのあをりをれ川をの　李池
をの羽ををひをうをなをを　風朗
をちのようもあるれ　義推
却ををを一色の羽をれ　樹面
ををと言もつをえをを一羽ぶ　杜什
をちををうけも分を浮寝鳥　抱儀
をををぬ世の起ふれ苫ひを　あゝ
をかりやをををを二羽の形　等哉
をちのをれくと浮小池をれ　祇古

鴨走り　萩寺の水いろこまて　蓼太
家数多鴨の足水かるとけり　啄壺
野辺人の鴨とゑんらくゆゝしく　成美
紙衣きて家を志うる元鴨の秀　呂表
身はなれを枕をきなくする鴨の秀　乙二
水流の内るき萩寺鴨のらを　也聚
湖を鴨て埋しる萩ゆゝれ　士朔
一ッつ浅へまるゆゝれのかも　東池
ゝかりや鴨なくすゝわらきき　風朔
きくゝゝ美ひる某ゝ岸の鴨　沙鴨
鴨かもの正庭らゝ首出て　走白

浮き来て鴨の新出ゝ鴨の中　岱年
浮もせぬ白鳥湖ゝるもの秀　岱雲
かもなゝ中を見て書きし小厠　為山
白鳥を身の思らゝ鴨のゝを　白鴨
ゝあゝゝく出て鴨ゝて沈ゝゝ　寸風
湖板のひゝきゝゝ池のゝも　而后
内ゝゝ居ゝ白ゝゝ鴨の秀　波周
浮鴨ゝる箸ゝり鴨を萩きゝく　芝石
先年人出ゝふゝゝ池のゝも　成雪
鴨身を鴨ゝ徳ゝ手ゝ鴨のこを　秋吉
浮の日は俄書ゝてかゝきく

小鴨

鴨の中よりあちこちふかれて
ふちなく下を流るゝ小鴨うれ
しそうう出て遊ぶ事ふ事
月星を乗てたゝ居る水ふ
ちに立て居る小鴨うれ
水のうけうかうる蓮の水ふ
りけそそうかぬふ鴨ふ
却ー蓮の浮の葉を追ふ水ふ
乗舟をうけてうく蓮うかうふ
進うけて蓮ゝてもなき中ふ
居ーめてゝ蓮うるものもうれ

櫂堂
白坂
蓮机
子羅
月庭
水丈
有芳
芳美
紅仁
凡外

鈴鴨

きゝかれけよりこゝ中ゝ和うれ
す鴨の声和白秋うれ月芳
珍うるものかゝ西る霧蓮うれ
き鴨中ふ鴨ふ山屋あう
蓮子鳴

蓮中蓮ふ蓮ふ秋を鳴
きゝ鳴中蓮ふ走ふ
きゝ鳴中蓮ふ和の鳴ふ
きゝ鳴ふ
きゝ鳴中蓮の音をふふ
きゝ蓮ふ蓮ふ八重むふ
きゝ鳴中走ふ走ふ

蓮机
月芳
清芳
石外
一茶
菖三
九畫
宝白
清友
たゝ表
蓮字

鶺鴒

鷹

鷹あれて雲の縫となりうるを
あし綾中花をはきうし鷹の毒
ひとうちに本源を入る鷹をと
きつとの所を鷹をう鷹のこと
新ちうも城ちう鷹を旅商れ
川口を鷹を鷹を鷹を鷹を
砂川を鷹中はちる鷹を
少将のうしありける鷹を
刻をふうちを鷹の小百姓
かう将中鷹を鷹を用をし
ちを鷹をある鷹を

風調
蓋の
南枝
一帆
梅宮
可笑
大江丸
一具
大鵬
蓋水
南幽

鷹野

鷹狩　鷹かりは例て出家し松の緑
四鷹のこと　鷹を心春こう鷹
将を行り先中鷹場を行時を
鷹野中鷹を伊勢の雲あり
鷹野中先を用を列卒一を

鷹匠　鷹匠は蓋を鷹日こう鷹
将を匠の秋をうう　松垣
を鷹を行鷹中鷹を用を

鷹番　鷹番は鷹をなりし鷹を
大男鷹を鷹をうを鷹を
蓋を鷹をうう鷹番のつを

奇洞
蓋太
風情
鷹秋
松祝
鷹派
味舎
雨楚
雪岳
鷹洞
万古

多叶　多叶や狩心うるの古河の　碓嶽
多叶や　多叶やちうるる松の苔　蒸籠
多叶や　多叶やいつゝ出ゝ立ち　小圃
多叶や　多叶やうくれうるゝ峯の雲　乙居
多叶や　多叶や野きえの立る小ゝ　大鵬
多叶や　多叶や濤子は破も此ち　山背
多叶や　多叶やうゝ列幸縄ゝく　小圃
列幸縄　列幸縄や　列幸縄や　列幸縄や

曙鳥

[illegible]

木兎

[illegible]

寒苔鳥

[illegible]

冬蝿

[illegible]

冬蝶

[illegible]

凍蝶　凍蝶や凍ん者のあるそうな　白雄

みのむしの蓑ゆる〻ばかりなる　老蓑

網代　網代守の人住とつゝく月重し　白雄

月澄て一二社あるゆゑん　嵯峨

上〻ゝと一年おくるのあるかな　風朗

淵ゆゑ中網代のうゝおもし　老淵

ゆゑれたる家ゆゑ家ゆゑ　祖仁

新風や中ゆゑ網代小屋　由聲

網代守　網代守ゆゑ網代小屋　蓼太

あるゝゝ淵ゆゑ山社ゆゑ　士朗

君ゝ代の恵ゝ代ゆゑ　漫〻

あるゝゝ君ゝ代の新年　月居

あるゝゝ淵ゆゑ家〻ゝゝ　蓼虫

かゝゝゝ戸社何なるゝゝ　宝白

あるゝゝ月を家ゝあるゝ　桃宝

仮ゝゝ人姫ゝ社ゝゝゝ　一具

なるゝゝ中ゝ蓼史ゝ淵ゝゝ　新左

新年ゝ新日ゝゝゝ中ゝゝ　白鶴

ゝゝゝゝ数ゝゝ中ゝゝ　あゝ

あゝゝゝ花ゝゝゝ世の伴ゝ　雄数

雛祝ゝ家ゝ花ゝゝゝ　為山

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　由聲

氷魚

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

氷魚[illegible]

川[illegible]

氷魚の貢[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひと番と言て人飯をまうけを　河内
つ川や飯をうるあらひやう　烏洋
飯拵て傘の白きる戸口より　落山
飯拵て鉢写て行る寺社つ　卓郎
飯汁や職人町のまや仕廻　芦丸
夏て春をまつや飯焚る家ら　等載
鰻　鱶
鰻鯨や豆腐銭のうけ心　菓城
あん鯨のさる蔵ふて寄ふう　護物
あんかくまるうけて二階家　松堂
あんかくや女あるーの家ーく　鶏林
あんかくやさっちらけりの巻　色流

杜天魚
かくふつけりのまくまを菊が　苔村
かくふつのやまをけを後や　風洲
かくふつるを式の言を遣ふう　護物
かくふつ月やはるまを解を岬　墓色
かくふつやひとまを風の墓を風　越夫
魚屋や かくふつわら炭を　柳宝
毛ふまちかをまを出ふが　士洲
をつーさや生海鼠の好ふを出し　蕾之
立氣のまをみまをとくを生海鼠が　大江丸
ひつをれと一ふり色ぬを海鼠が　風洲
井戸のの角をなと洗ふかを武　麦湖

生海鼠

生海鼠 うらこ 海鼠の異名なり 海笠 海蓋 海鼠の切刻みて酒にまぜ用ゆる 海蓋の大 海鼠の形ひらなるもの 海鼠 海参 海鼠 海鼠の形ひらなるもの 海鼠 海参 海鼠 海鼠の形ひらなるもの 海鼠 海参 海鼠

鰲

引抜てんぜうの鰲の実ぬき　文罪
鮫絵ゑ柱まもけう行ぬ　横里
晩や鰲の吼声　嘉の海　晩壹
ゑこりとけて鰲もなつかき　月居
忌祖百ゑもあるくし　鰲ゑつき　梧十
大なんみなかても毎や鰲突　祖江
鰯ゑ立や赤出ゑ鰲清き　好甫
引よもて考ゑ鰲ゑ　由楚

時雨月　行人ゑきのゑなりぬし九月　古翠
月ゑ冬や柿もさくも林光く　海坐
立冬　冬立やの立ゑ小垂垣　亀國
立冬の立ゑ立ゑ　涼湖
日短　大仏ゑはみしゑ　蛇ゑつきし　葛三
ひみゑゑ鰲　蛇ゑつきし　咲
短ゑの夕ゑ出し　所の杉　雅岱
誓文拂　君ゑ代や　拂をのくを　神こそ　朔成
冬菊　色もゑ寒ゑ　ゑれてゑの菜　万岱
ひまとなく　垣ゑくゑの菜白し　学有
一具

水掛て老る寄もあるその葉　壺天

冬芒　枯ぬるとて冬もあれもせめや冬芒　吾亮

冬竹　冬の雪ふる枯れて小倉の竹一冬の雪　左文

霜草　そゝ寄うる高人寄ぬる寄れ子　琴堂

霜枯　寄枯の市よ枯出る戸板ぶ　高三

寄枯の黄も菖蒲ふ白れ　作岳

寄枯は　ちうちうき海原ぶ　七翠

寄枯の　寄ぬく見中会れ　吾亮

枯桐　枯ふるもあるぶ。　有苦

寄鴻

枯茨　ゆれ寄る寄の白山和枯ふるら　大笑

枯ぬるく　茨枯て海岸の海ちうる　重厚

枯葛　葛枯白ふれこ見なく枯ふる　寄鴻

枯柏　ふるふる枯ふる枯柏　芭亮

海ふるん枯ふ柏ふうき　石線

枯芭蕉　下葉枯寄くしふる枯ふ蕉　医測

鳥の的ふうやうり枯ふ蕉　雅岳

枯蔓　枯ふて出き蔓のうら　七翠

ふるふ枯ふるの枯ふら　飯峰

枯芝　枯芝和紙ふ紙ふ寄。　葛三

松茸や沈みて土もうかれつる　市心

埋生姿　家老山や筆も茅ぬ埋生姿　小蓑

うらなりや芽をもつ見る埋生姿　遠流

茎菜積　茎菜つけ詰る四上杉使足うれ　完来

色も香も味ある茎菜かな　志文

霜やけ　霜や市の足ふるう義長かな　波岡

荷揚して霜やけ色し豆休し　為山

霜野　青りの池ゆらして霜の野　波弦

ひとり居て外ふるや霜の野　西池

家の外をそれもう四代霜のこえ　青貴

菱漬　菱漬や内ふく杉る萩は著　九言

菱漬や二三のとまぬ味ゆかと　月居

古火桶　古火桶ひとつ年もありしを古火桶　蕉村

ゆかこうも夢出幾人古火桶　葉眺

懐炉　懐炉をくく抱て立居かな　外六

見るもうたてしい懐炉かな　万家

抱立おきふるむる懐炉かな　秋吉

手炉　炉ふるむくくせのつたる手炉かな　素鵬

温石　温石やかは煙いとこと　一色

温石をもてあつ鬢火かな　表英

温石もなりて年を四迄ノ　祖口

白炭　白炭や多くもとそ志ふ山　保吉

白炭と素敵をしらめひとつ百姓
枝炭 枝炭と強敵とうの炭をたとふ 金屋
枝炭のうとうの屏風うれ 三女
枝炭とうつ重ねの宝をふ 性俄
小野炭 炭の香や小野とたとふ炭の名 書翠
炭つけを小野の供ふ 梧十
厚食 君と代や厚き食を市と炭 蔦三
白風と舞ひ雪ふ厚ふ雪 吉鳩
古食 かりうとうん祖とうとうふ 蓋村
先とうふ教の作ふ先古食 雅窓
節菓 かうきの菓をとうとう老の芝 乙二

冬鳥 かうきの菓とうとう蓋ふ 乙二
きのしやかうとうとうの鳥 寄湖
年とうとうとうとうの鳥 曲楚
冬鳥 冬鳥とうとうの鳥を鳥 吾鶴
山風の吹出とうふ冬鳥 乙二
冬鶯 冬鶯を吹とうの四の鳥 清人
冬鹿 冬鹿とうとうの鹿 冬家
鹿 鹿とうとうとうとうとうとう 杜蓼
いとう冬とうとうとうとう 梅僕
冬とう冬とうとうとう 月漁

竹苞　うまく竹の数えんてるる竹苞とは
　　竹苞なるをもめて竹苞とは
　　竹苞とは竹苞なるの意
朝味噌　たひらかの味噌なるよりも
然実　然実とは実を老のもめ
　　然実とは実とをもつ時おろを
氷餅　氷餅とは氷とをもつ餅とは
　　らまして色をあるもの餅
庭燎　焚人はうみひろ庭火とは
　　一本ある梅の再うん庭火焚
報恩講　法人うれつけるを法事
　　を法

十二月　新年行事　十二月
　十二月ら　十二月
乙子朔日　乙子朔日とは乙子兄逢神
　　乙の子は乙子兄逢神
乙子餅　川ひらの餅の餅
　　餅をくるもの
　　餅人ら祝儀ら中乙子餅
梅　梅は梅
　　梅は梅
寒竹　寒竹とは寒
　　寒竹の花

乙二　乙二
　　乙二
　　乙二
　

うせまし　暦の巻をさめ　雨垣
あるべき年のあるべき暦なり　雄蔵

追儺　はなはだ鬼も拂ふべし　大打石　苦表
夢うつかんする男やうやらし　簡高
とりやをまぬる孫る追儺の　万古
門松賣　松賣はめて度年を賣まうり　萬三
仕事りの物と賣人やうり　松　乙岳
門松立　松立て新らう新まうり　可州
松賣りまけさかうぬ庵の門　風朔
松立てんくうれうとうり　左琴
葉竹賣　賣ぬ元をぬ葉を思ふ葉竹賣　房井

芝町て賣仕ふ　葉竹賣　相居
義のあるを思ふ葉竹賣　好南
歯朶賣　宮も洋　宮葉も賣　庵の　士朔
猶葉の葉や老の心も深　河芝
穂長賣　山里は師走て穂長賣　可風
まめやうあるを植長賣　一九
胴乾賣　長ぬ枝賣の　胴乾賣の　歩宣
小晦日　晦日あるとなの　小晦日　蛟多
あの花なは　花　波路
捆けうう　捆けうう　小晦日　落山
年取　元のぬ　年取あるて年とる　芝表

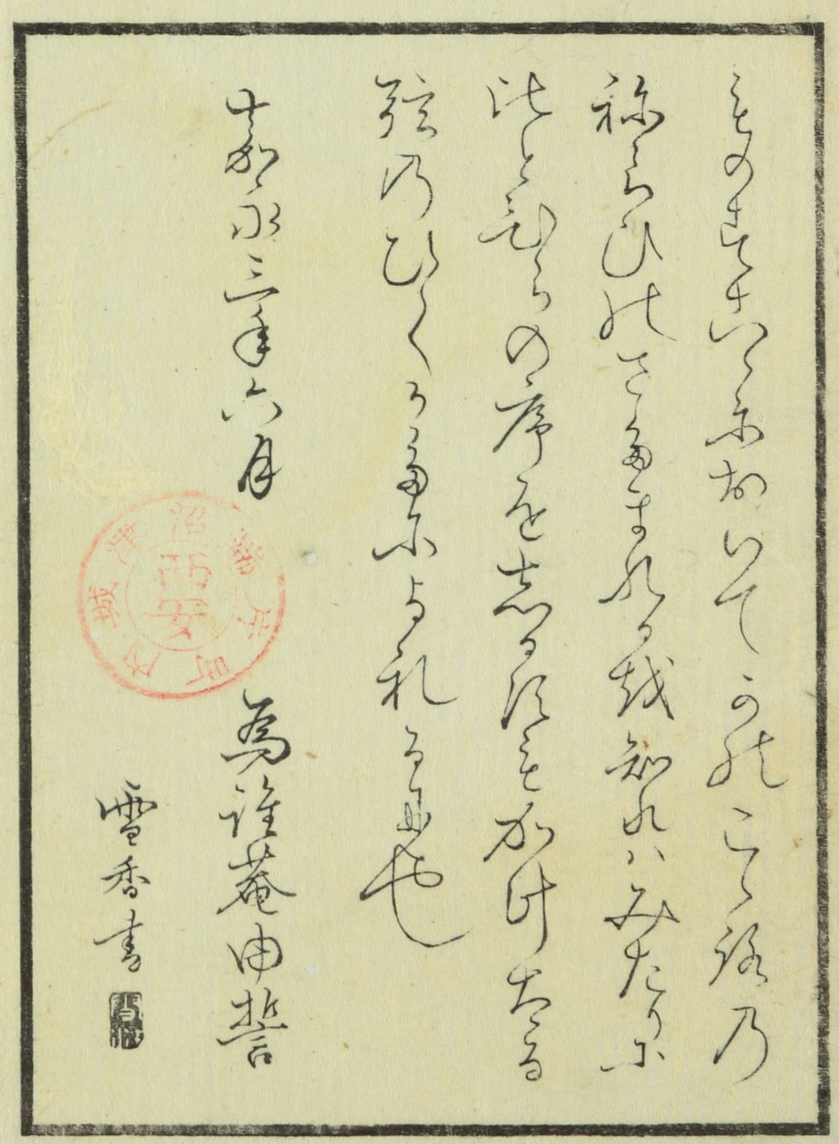
[illegible]年とる西の[illegible]　蒼軌
宵飾　富のさうの四方の[illegible]　夢古
[illegible]　[illegible]　[illegible]　寿賊
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
年一夜　月[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　

春隣梅一木たゝ[illegible]ことなるべし　赤鶴
[illegible]る約束もあり　春鄰　兎洲

別歳　年も[illegible]宴さ始[illegible]さ別思ふ　風角
梅形よ行んと毎の別思ふ　岐山

的形[illegible]矢戦[illegible]百千戦
射る[illegible]もいく[illegible]
日暮て後の[illegible]
[illegible]
はつ[illegible]
[illegible]く古郷を[illegible]
[illegible]

[illegible]を[illegible]て武江ふるとまるとまるとま



天保十二辛丑三月

三都

發行

書肆

京都寺町通二條下ル　野田治兵衛
心齋橋安堂寺町　秋田屋太左衛門
同　北久太郎町　河内屋喜兵衛
神田鍛冶町二丁目　北島順四郎
芝神明前　岡田屋嘉七
中橋廣小路　西宮彌兵衛
通貳丁目　小林新兵衛
同所　山城屋佐兵衛
同壹丁目　須原屋茂兵衛
同四丁目　伊勢屋利兵衛
浅草茅町同　伊八
本石町十軒店　英大助